

 評価のポイント

CL- I . 看護実践能力：ニーズをとらえる力

【8-1】 小児のフィジカル・イグザミネーションの実践と工夫

小児のフィジカル・イグザミネーションを実践する上で成人と異なる部分や配慮すべき点を挙げてください（講義にある内容だけでなく、あなたなりの考えも含めて）

フィジカル・イグザミネーションの基本的な手技は、小児も成人も大きな違いはありませんが、以下のような点が異なります。

- ・成人のように、単なる説明だけでは協力できないため、あそびの要素を取り入れる

例）頬を膨らませて → “あっぶっぶ”してみよう

- ・大人とは違う感覚で生じる“羞恥心”があるので、表情・反応を注意深く観察するとともに、本人によく確認する

・親の同席をどうするか？ 乳幼児の場合は分離不安があり、学童・思春期では親にたいしても敏感に羞恥心が生じる可能性があります。正解は上記だけではありません。実践の工夫を各自で考えてみてください